赤ちゃんの四季（45）平成24年春

桃の節句　ひな祭り

桃の節句は、五節句のうちのひとつ、3月3日の上巳（じょうし／じょうみ）の節句のことで、ひな祭りとも呼ばれ、慣れ親しまれています。「桃の節句」の起源は平安時代より前であり、京の貴族階級の子女が、天皇の御所を模した御殿や飾り付けで遊んで健康と厄除を願ったのが始まりとされています。

やがて武家社会でも行われるようになり、端午の節句とともに男女の別なく行われていました。江戸時代になると豪華な雛人形は女の子に属するものとなり、庶民の人形（ひとがた）遊びと節句が結び付けられ、行事として発展したようです。

ひな飾りには流行があり、それまで五段飾りが中心でしたが、高度経済成長期には七段に、バブル期には八段飾りも売られていました。最近では部屋の大きさに合わせ、雛人形を出し入れしやすいように段数を減らしたのが主流だそうです。

兵庫県東北部に位置する猪名川町では、毎年4月上旬に文化協会主催の「雛祭り」が役場隣の静思館で開催されています。町内の方からご寄贈いただいた「御殿飾り雛」、「享保雛」、「稚児雛」などが展示され、300年以上前（推定）のお雛さまもあります。また、明治時代から平成までのさまざまな年代の雛人形や、創作雛飾り、段飾りの雛人形など、大小あわせて約200点が展示されており、お琴の演奏や、呈茶もあります。私は昨年初めて訪れ、風情ある建物の中で見る華やかな雛人形は格別のものでした。今年も旧暦の3月3日に合わせて、4月3日（火）から8日（日）まで催されますので、ぜひ訪れてみてください。

ところでお母さん、桃の節句を過ぎてもお雛さんを飾っていると娘が行き遅れると、慌てて片付けていませんか。旧暦の3月3日までにはまだ十分に日があります。折角の高価で、華やかなお雛さんをみなさんによく見てもらい、楽しんでください。